

いもち病（葉いもち）情報第3号

平成26年 7月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 葉いもち感染好適条件の出現状況

県下各地で7月4日から10日にかけて感染好適条件（●印）が出現しました。7月10日深夜から11日未明にかけて台風8号が東海地方の南海上を通過しましたが、感染好適条件とはならず、その後も、感染好適条件は出現しませんでした（表）。

2 発生状況

7月上旬の巡回調査（157ほ場）では、葉いもちの発生を認めませんでした（前年発生ほ場率2.6%、平年発生ほ場率11.1%、前年発病株率0.25%、平年発病株率1.16%）。葉いもちの発生時期は遅く、発生量も過去10年で最も少ない状況です。

3 今後の見込み

週間天気予報によれば、向こう一週間（7月17日～23日）は、梅雨前線や湿った気流の影響で雲が広がりやすく、期間の中頃は雨の降る日があると予測されています。また、最高気温と最低気温はともに、平年並か平年より高く、降水量は平年並か平年より少ない見込みです。

降雨はいもち病の感染が成立するための要因の一つですが、気温も重要な要因です。梅雨明け後は、一般に好天で高温が続くと予測されるため、この状況が続けば、葉いもちの感染は成立しにくくなると判断できます。

葉いもちの発生量が少ないため、早期栽培での穂いもちの発生は少ないと予測します。ただし、常発地では発生に注意してください。

表 水稻いもち発生予測システムによる葉いもち感染好適日の推定結果（7月1日～7月15日）

日付	尾張				西三河		東三河			中山間	
	愛西	名古屋	大府	南知多	豊田	岡崎	蒲郡	伊良湖	豊橋	新城	稲武
7/1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/4	2	3	4	2	3	4	1	1	1	1	●
7/5	2	—	—	2	3	—	—	4	—	2	7
7/6	—	5	—	—	3	●	—	—	—	—	—
7/7	●	1	5	●	6	●	●	4	4	●	5
7/8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9
7/9	—	—	—	●	—	③	●	●	●	—	●
7/10	4	③	③	●	③	③	●	5	5	●	●
7/11	3	2	4	5	②	2	2	4	—	—	1
7/12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/14	3	4	6	1	3	3	2	—	—	1	7
7/15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

●：好適条件（湿潤時間が長く気温も適当で、いもち病発生の好適条件が現れた）

④：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が比較的低温、その平均気温に必要な湿潤時間より短い）

③：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃の範囲外）

②：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上）

①：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満）

数値：湿潤時間が10時間未満の場合の湿潤時間数

—：好適条件なし（いもち病発生の好適条件が現れなかった）